



重なり合う困難から見えるもの

—性別と障害、その2つが重なるときに生まれる“不平等の現実”から、私たちの暮らしを考える—

私たちの身のまわりには、気づかれにくいけれど確かに存在する“不平等や不公平さ”があります。障害、年齢、性別、人種、貧困…それぞれの要素が重なり合うことで、思いもよらない生きづらさにつながる場合があります。

今回は、障害のある女性たちの声や経験を通して、その“生きづらさにつながる仕組み（複合差別）”を一緒に考えます。

性別や障害の有無にかかわらず、一人ひとりが尊重され、人権が守られる社会を実現するために。「知ること」「気づくこと」から始めて、私たちの地域をもっと安心して暮らせる場所にしていきませんか。

2025年11月17日(月) 13:30-16:45

京都テルサ 東館3階 大会議室

京都市南区東九条下殿田町70番地(新町通九条下ル)

- JR京都駅(八条口西口)より南へ徒歩約15分
- 近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分
- 地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分
- 市バス九条車庫南へすぐ

参加無料
定員100名

対象:このテーマに関心のある方

- 生きづらさを抱える方、その周囲にいるご家族、ご友人、関係者など
- 福祉・教育・医療・司法などの専門職の方
- その他、本テーマに関心をお持ちいただける方

申込:QRコード・FAXにてお申し込みください。

お申込の期限は、11月10日(月)です。



<https://forms.gle/TnswzvuyLApXbCzC6>

第一部

基調講演

講師:藤原久美子氏(DPI女性障害者ネットワーク代表)

10代でI型糖尿病になり、34歳で糖尿病の合併症により失明。手術により右目は少し視力があり、今は弱視の状態。家事援助やガイドヘルパーを頼んで生活している。

「自立生活センター神戸Beすけっと」事務局長。2016年からDPI女性障害者ネットワーク代表。国内外で女性の障害の現状や政策提言を積極的に行っている。

第二部

京都の活動報告とトークセッション

香田晴子氏(日本自立生活センター代表・京都SARA支援員)

村田恵子氏(京都頸髄損傷者連絡会会長・京都SARA支援員)

聞き手:平田義(支援センター「あいりん」)



主催:京都市

お問い合わせ・実施機関:京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

電話:075-604-6159 / FAX:075-604-6155(担当:太田・福野)

メール:airin@athena.ocn.ne.jp

2025年度 京都市 障害理解の普及・啓発事業

「重なり合う困難から見えるもの」 参加申込書

FAX番号: 075-604-6155

氏名 (ニックネーム可)	
連絡先	電 話: メール:
必要な配慮 について	文字通訳、手話通訳、視覚障害者用テキストデータ、場内誘導、座席の確保等、特別な配慮をご希望の方は、ご希望の内容をお知らせください。ご要望内容を検討させていただき、できる限りの対応を取らせていただきます。

- ☐ お申込完了のご連絡は省略させていただいております。当日、直接会場へお越し下さい。
(定員超過で、ご参加をお断りする場合又は会場に変更があった場合等にご連絡します。)
- ☐ 申込みに際しご提供頂いた個人情報、今回の研修以外には使用致しません。

●プログラム●

※内容は変更する場合があります

13:00	開場
13:30-13:45	挨拶・本研修の趣旨説明
13:45-14:45	第一部:基調講演 講師:藤原久美子氏(DPI女性障害者ネットワーク代表)
14:45-15:00	休憩
15:00-16:15	第二部:京都の活動報告とトークセッション 香田晴子氏(日本自立生活センター代表・京都SARA支援員) 村田恵子氏(京都頸髄損傷者連絡会会長・京都SARA支援員) 聞き手:平田義(支援センター「あいりん」)
16:15-16:45	質疑応答 アンケート記入のお願い

●申込・お問い合わせ●

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

電話:075-604-6159 / FAX:075-604-6155(担当:太田・福野)

メール:airin@athena.ocn.ne.jp

〒612-8141 京都府京都市伏見区向島二ノ丸町151-34